

大津町議会 総務常任委員会行政調査報告

氏名 中山 直之

視察研修名：大津町議会総務常任委員会行政視察

研 修 先：①宮城県仙台市
②福島県双葉町
③茨城県高萩市

期 日：令和7年11月17日（月）～19日（水）

研修テーマ：①仙台空港アクセス線について
②東日本大震災（当時の状況・避難体制等）について
③「My Rideのるる」について

研修報告 意見・感想

【仙台空港アクセス鉄道視察】

今回の視察で私が最も関心を持っていたのが、仙台空港アクセス線である。

その理由は、大津町でも阿蘇くまもと空港アクセス鉄道の計画が進められており、私の住む岩坂地区は高架区間に該当するためである。地域住民からは不安の声を聞くことも多く、アクセス鉄道が地域や大津町の発展につながる鉄道となるためには何が必要なのかを学ぶため、先進地である仙台を視察した。

中間駅周辺を視察して感じたのは、事業を進める上で最も重要なのは地域の理解と協力であるということだ。

鉄道整備によって地域がどのように変化し、それが住民生活にどのような影響をもたらすのかを丁寧に説明し、地域とともにまちづくりを進めていくことが重要である。

中間駅周辺は新興住宅地として発展し、新たな小学校や商業施設も整備されている。現在では仙台市内でも住みたい地域の上位に挙げられるエリアとなっている。

まちづくりの進展に伴い利用客も増加している一方、安定した経営を続けるためには課題も残されているとのことであった。そのため、さらなる利用者拡大を目指し、ビジネス利用や観光利用の促進に力を入れているとの説明を受けた。

阿蘇くまもと空港アクセス鉄道の開通予定は約10年後である。中間駅周辺のまちづくりによる効果が現れるのはさらにその先になると考えられる。だからこそ、15年後、20年後の地域の姿を描きながら、今の段階から地域住民の理解と協力を得ていくことが重要であると、今回の視察を通して改めて感じた。

【双葉町視察】

双葉町の現状は、メディアを通して知る以上に厳しいものであった。

現在も多く町民が町外で生活しており、住民の帰還や人口回復の見通しは依然として不透明な状況である。

双葉町は地震と原発事故という二つの大きな災害に同時に見舞われた。将来を見通すことが難しい状況の中でも、職員の皆さんは未来に向けて一つひとつ着実に取り組みを進めておられた。

特に印象に残ったのは、現状の課題に向き合いながらも、町の将来像をしっかりと描き、その実現に向けて努力を続けている姿勢である。

今回の視察を通じて、困難な状況にあっても長期的な視点を持ち、未来を見据えて取り組むことの重要性を改めて学ぶことができた。

【高萩市視察】

高萩市では、AI オンデマンド交通「のるる」の取り組みについて視察を行った。

職員の方に専用アプリの操作方法を説明していただきながら、実際に予約を行い、乗車も体験した。

予約方法は非常に分かりやすく、待ち時間や車両の現在地も確認できる仕組みとなっていた。そのため、「本当に来るのだろうか」といった利用者の不安による問い合わせはほとんどないとのことであった。

また、「のるる」は既存のバス事業者からの提案によって導入されたものであり、既存路線との競合を避けながら、乗り合いタクシーとも役割分担が図られているとの説明を受けた。

利用者の中には公立学校の生徒も多く、長期休暇期間中は昼間の利用も増えるという点が印象的であった。通学だけでなく、友人宅への移動手段としても活用されているとのことであり、子どもたちの移動手段の確保にもつながっていることがうかがえた。

さらに、高齢者の免許返納後の移動手段としても活用されており、地域交通を支える重要な役割を果たしている。

運行開始後も利用者の声を丁寧に聞き取り、仮想バス停の位置を見直すなど、継続的な改善を重ねている点も参考になった。

人口減少や高齢化が進む中、地域交通の維持は全国共通の課題である。今回の視察を通じて、利用者目線でサービスを改善しながら地域の移動手段を確保していくことの重要性を学んだ。大津町においても、将来を見据えた地域交通のあり方を検討する上で、大変参考となる視察であった。